宮沢健一『国民所得理論 三訂版』筑摩書房 1984 年、314-315 頁

成長率と貯蓄・投資—ハロッドの経済成長の基本方程式

投資 = I ,

貯蓄 = S ,

産出量 = 生産量 = Y ,

算出量の増分 = ΔY

$I/Y = S/Y$ 左辺に $\Delta Y / \Delta Y$ を掛けて

$\Delta Y / Y \cdot I / \Delta Y = S / Y$ ……(*)

$\Delta Y / Y$ を G と書く。

(産出量の増分) / (産出量) とは、産出量の成長率

$I / \Delta Y$ を C と書く。

C は、産出量の増分のために必要な投資 I つまり資本財の増加量。限界資本係数とよぶ。

投資は資本財の増加である。

ある年の投資の流れ（フロー）が、過去において蓄積されてきた機械や設備などの資本財の存在高（ストック）につけ加わって、資本存在量 K を増す。 $I \equiv \Delta K$

よって、 $I / \Delta Y = \Delta K / \Delta Y$

$\Delta K / \Delta Y$ は、一定量の産出増を生み出すのにより必要な資本財への追加分。この比率が低くてすむというのであれば、生産の成長率はそれだけ高まる

C の逆数 $\Delta Y / \Delta K$ は、1 単位の投資がどれだけの産出増を生むか。投資の産出係数。

$S / Y =$ (貯蓄) / (産出量) を s と書く

s は、ある期間の産出量のうち貯蓄して将来に残す比率。貯蓄率または蓄積率。

産出量のうち貯蓄をつうじて資本の蓄積分にまわす比率 s が高いほど、生産の成長率は高まるはず。

こうして 経済成長の基本方程式(*) は

$$G C = s$$

投資の産出係数を通じて生産能力が年々拡大するのなら、

ケインズのようにたんに高い所得の水準を維持するだけでは不十分で、

年々拡大する生産能力を吸収するだけ所得水準そのものが成長していかなければならぬ

これがハロッドとドーマーの問題意識

ハロッドの自然成長率 G_n

ハロッドの保証成長率あるいは適正成長率 G_w